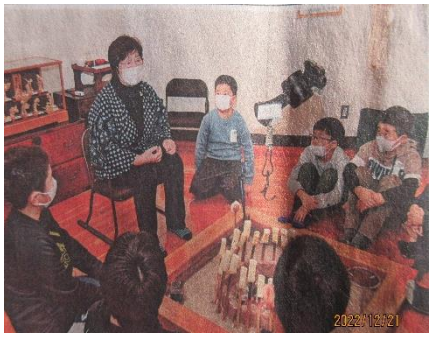
学校給食だより　秋田っ子給食　NO－98

公益財団法人　秋田県学校給食会

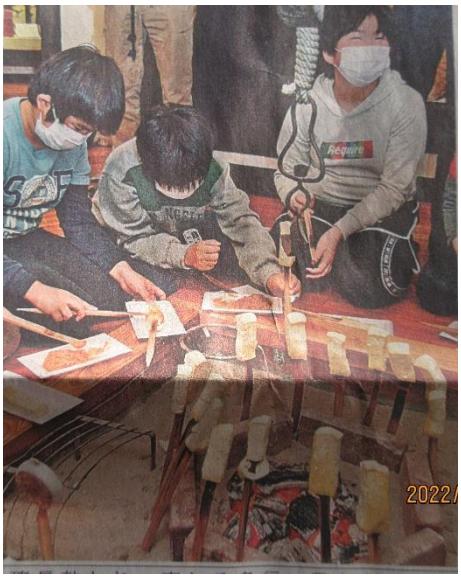
健康願い「豆腐あぶり」
東成瀬小児童　地元の年中行事体験



東成瀬村に古くから伝わる年中行事「豆腐あぶり」が13日、同村田子内のふる里館で行われ、東成瀬小学校の4年生10人が、豆腐のみそ田楽を食べて来年1年間の健康を願った。

豆腐あぶりは1年間の薬代や診療代を医者に支払う12月8日の「薬礼日」に合わせた行事で、豆腐にみそを塗って焼いて食べる。「医者のすねにみそをつける（恥をかかせる）」から転じたとされ、来年こそは医者にかからないとの意味を込めているという。

最初に、ふる里館の櫻田隆館長が「（昔の人は）お医者さんの白衣に似ている豆腐を焼いてみそをつけて食べることで、お医者さんのかからないようにしようとした」と豆腐あぶりの由来を説明。その後、児童は串に刺していろりであぶった豆腐に、砂糖を混ぜた甘めのみそを塗って頬張った。



豆腐あぶりを初めて体験したという鈴木大晴君は「豆腐は外側がカリカリとしていて、中はとろとろでおいしかった。豆腐を白衣に見立てているということを知ることができた」と話した。

同校は、村の年中行事を再現する事業を学年ごとに実施しており、毎年12月には4年生を対象に豆腐あぶりを行っている。この日は豆腐あぶりのほか、地元の昔語りのメンバーらでつくる「昔っこの会」の会員から豆腐に関する昔話を聞いたり、地域の文化や歴史を詠んだ「郷土かるた」の体験をしたりした。

（湊文香）

（秋田魁新聞令和4年12月18日(日)より一部抜粋）